

地元一丸となった プロモーション活動が大切



大阪商工会議所 会頭 **野村 明雄**

本年8月2日、待望の関西国際空港の第2滑走路がオープンいたします。複数滑走路を持つわが国初の完全24時間空港の誕生となります。政府のアジア・ゲートウェイ戦略会議では、アジア各国との交流を活性化するため、日本の国際拠点空港の機能強化のあり方が議論されていますが、こうした中、関西国際空港は最も利便性の高い国際拠点空港としてさらなる活用が期待されるところであります。

関西国際空港は、昨年7月の日中航空交渉の合意を受けて中国路線が大幅に増便されるなど、「2007年夏スケジュール」では国際定期便は前年同期比65便増の週776便と過去最高を更新する見通しです。今後、第2滑走路の供用開始により、旅客・物流能力が向上し、さらに便数の増加に弾みがつくとともに、完全24時間空港化による物流のスピードアップも期待されます。旅客については、利便性の向上を図り、来るべき観光ビッグバンで急増が予想される観光客を呼び込むこと、また、貨物については、付加価値の高い航空貨物を24時間ジャストインタイムで輸送可能となる利点を活かして、大阪・関西の「モノづくり産業」の競争力強化と企業立地につなげていくことが重要であります。

そのためには、ハード面では、2期島内の旅客ターミナルや貨物用駐機場などの施設整備が必要であり、ソフト面では、利用促進を図るとともに、プロモーション活動に注力して

いかなければなりません。

とりわけソフト面においては、関西の地元経済界としても、これまであらゆる機会、また様々な手段を通じて、関空の利用促進に取り組んでおります。地元自治体、関空会社とスクラムを組み、国内外のエアラインの関空への誘致活動を精力的に進め、その結果、昨年は中国主要都市との直行便の大幅な増便、台湾やトルコの航空会社の新規乗り入れや復便などが実現しています。同時に、関西のビジネスマンが国内外の出張時には関空を優先的に利用する「関空利用促進宣言」への賛同を企業に呼びかけ、賛同企業数は現在1,275社に上っています。今後も、今年度の年間発着回数目標である13万回程度の達成に向けて、引き続き地元一丸となってプロモーション活動に注力していくことが大切です。

折りしも今年は、第2滑走路オープン直後に、地元で世界陸上選手権や世界華商大会などのビッグイベントが控えており、大阪・関西が世界から注目され、賑わいが増す、大きな可能性を持った年です。日本の玄関口としての関空の利便性、快適性を実感していただく絶好の機会であるとともに、大阪・関西の魅力をも十分に感じていただくチャンスでもあります。地元がしっかりと受入準備やPR体制をとって対応することで、より多くの人が集まり、大阪・関西に新たな「賑わい」が創り出されることを期待しております。